

令和2年7月20日  
交通政策審議会  
港湾分科会第5回防災部会  
資料1

# 令和2年7月豪雨における港湾の対応

令和2年 7月20日  
港湾局

# 令和2年7月豪雨の概要

- 7月3日以降、梅雨前線の長期停滞に伴い、暖かく湿った空気が流れ込み続けたことにより、西日本から東日本にかけての広い範囲で記録的な大雨が発生。(7月上旬に全国のアメダス地点で観測した降水量の総和及び1時間降水量50mm以上の発生回数が、共に1982年以降で最多を記録。)
- 熊本県・鹿児島県・福岡県等の九州地方をはじめ、四国・中国地方から東海地方などの広い範囲で被害が発生。

## 気象の状況

### 各地方からの降り始めからの雨量

※赤字: 1000mm以上

地方	降り始め(3日)から15日12時までの総雨量(単位ミリ)
東北地方	288.0
関東甲信地方	1466.5
北陸地方	469.0
東海地方	1143.5
近畿地方	1335.0
中国地方	569.0
四国地方	1491.5
九州北部地方	1353.5
九州南部	1156.0

### 降雨量の総和

(1982年1月上旬～2020年7月上旬)

順位	時期	降雨量の総和(mm)	備考
1	2020年7月上旬	208,308.0	令和2年7月豪雨
2	2018年7月上旬	207,562.5	平成30年7月豪雨
3	1985年6月下旬	199,078.0	
4	2017年10月下旬	191,532.0	
5	1990年9月中旬	191,325.0	
6	2014年8月上旬	173,754.0	平成26年8月豪雨
7	1999年6月下旬	161,027.5	
8	1995年7月下旬	156,514.0	
9	1989年9月上旬	154,334.0	
10	1983年9月下旬	145,924.0	

### 1時間降水量50mm以上の発生回数

(1982年1月上旬～2020年7月上旬)

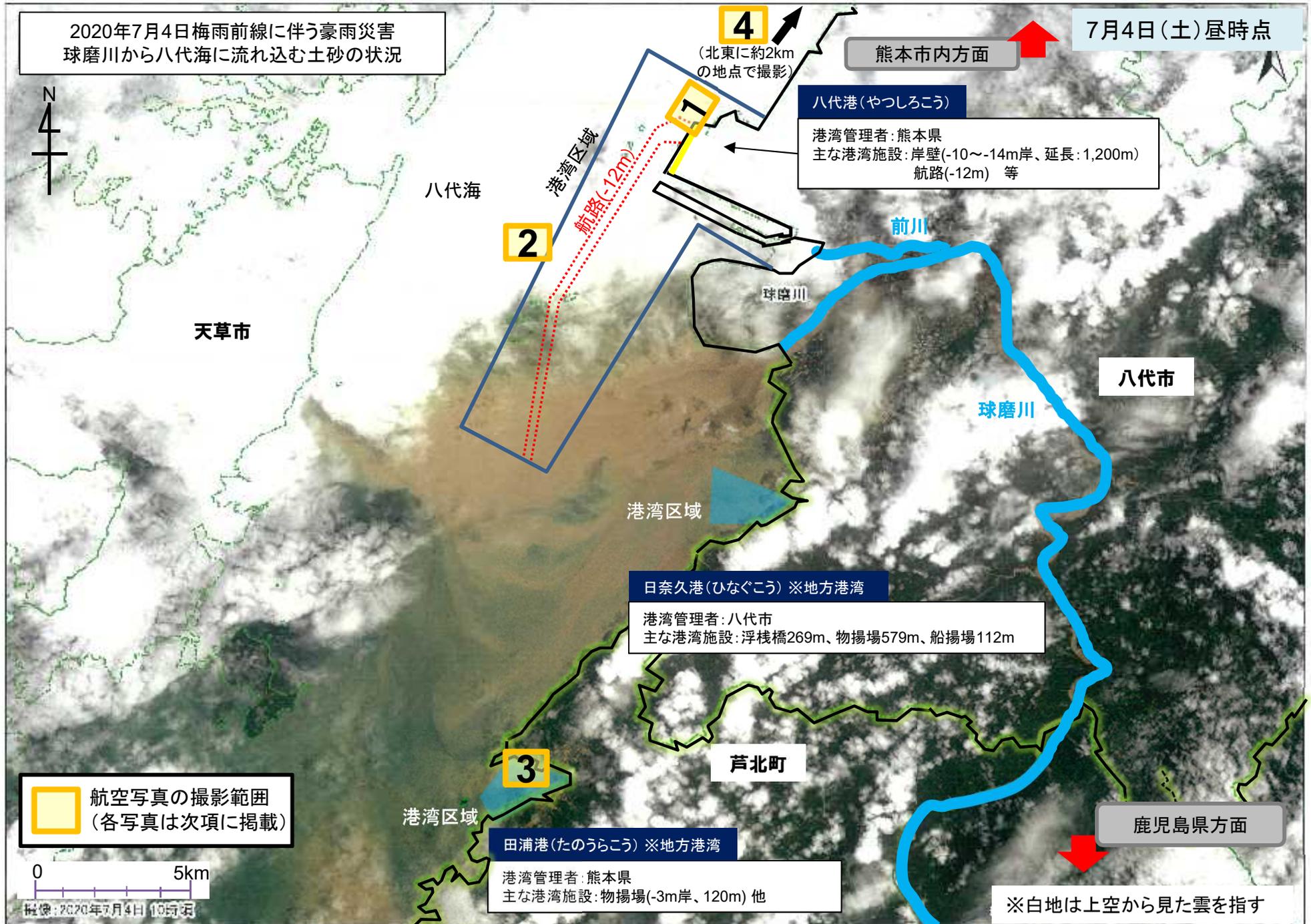
順位	時期	発生回数	備考
1	2020年7月上旬	82	令和2年7月豪雨
2	2019年10月中旬	69	令和元年東日本台風
3	1993年9月上旬	67	
4	1998年9月下旬	66	
4	2012年7月中旬	66	平成24年7月九州北部豪雨
4	2018年7月上旬	66	平成30年7月豪雨
7	2014年6月上旬	65	平成26年8月豪雨
8	2016年7月中旬	59	
9	2017年9月中旬	59	
10	1990年9月中旬	58	

## 令和2年7月豪雨災害による被害状況等について(7月17日12時現在)

人的被害	死者77名、心肺停止1名、行方不明7名
住宅被害	全壊574棟、半壊111棟、一部破損235棟、床上浸水7,463棟 床下浸水6,972棟
河川	国管理河川: 6水系6河川で氾濫が発生、2水系2河川で内水氾濫が発生 県管理河川: 51水系107河川で外水・内水氾濫を確認
土砂災害	506件
道路	高速道路: 被災による通行止め2路線2区間 直轄国道: 被害3路線4区間、補助国道: 被害25路線49区間 都道府県道等: 被害30府県4市226区間

鉄道	施設被害: 9事業者13路線(うち九州地方は4事業者6路線) 運航状況: 9事業者13路線(うち九州地方は4事業者6路線)
港湾	重要港湾八代港で河口に位置する航路、泊地の埋没を確認、その他重要港湾2港で漂流物・漂着物を確認 地方港湾7港で、護岸の崩壊、漂流物、漂着物等が発生 港湾海岸11海岸で、護岸の崩壊、泊地の埋塞等が発生
TEC-FORCE等	のべ4,097人・日派遣(7月4日～)

# 衛星画像で確認した八代海への土砂流下状況



(一社)海洋調査協会からの資料提供を基に港湾局作成

# 八代海における漂流物の状況（アジア航測(株)・朝日航洋(株)より提供）



重要港湾八代港 外港地区(コンテナターミナル)周辺（7月4日 撮影）



前川河口から西に約8kmの地点（7月4日 撮影）

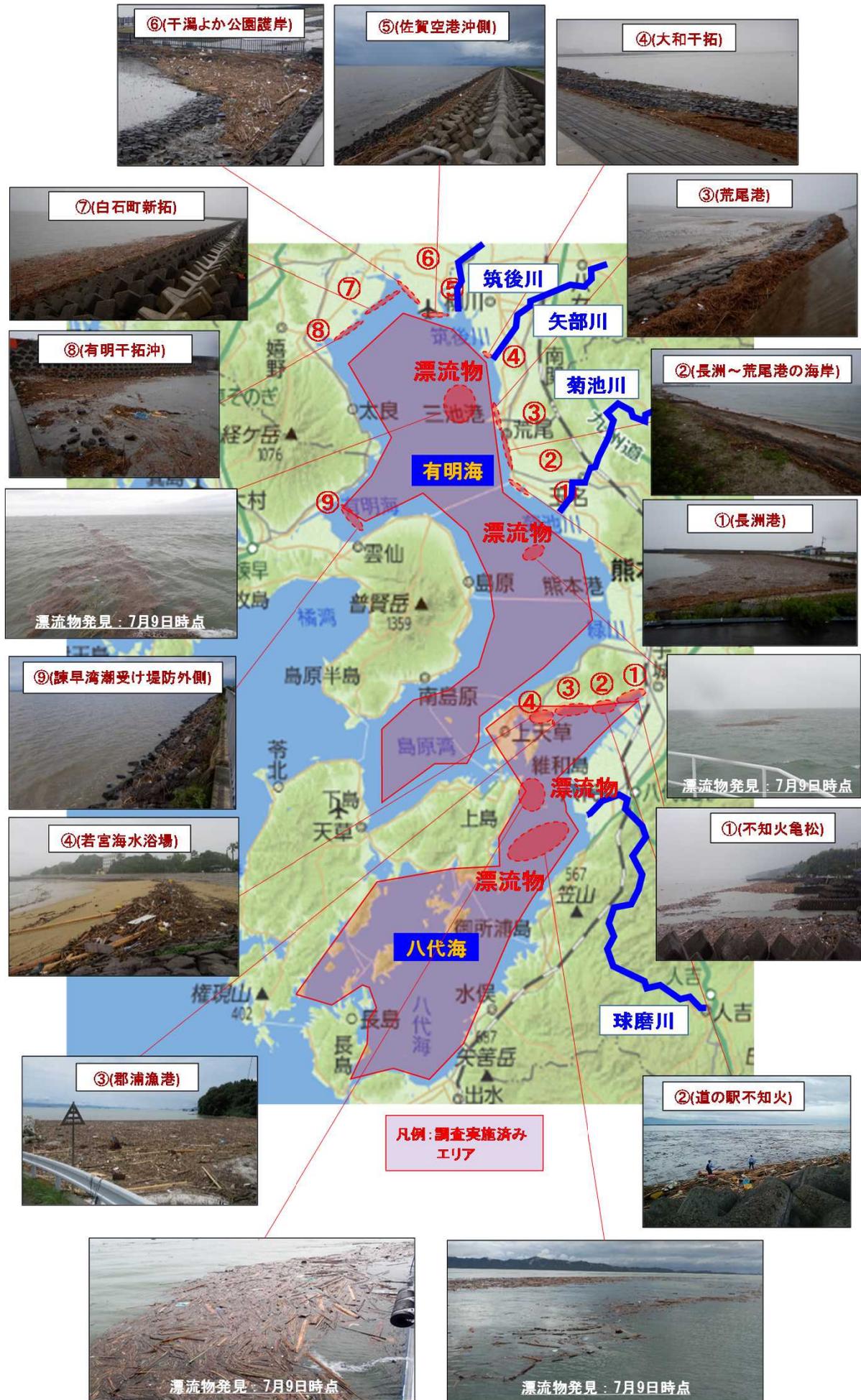


地方港湾田浦港 周辺（7月5日 撮影）



重要港湾八代港から北東に約6kmの地点（7月5日 撮影）

有明海・八代海における漂流物・漂着物調査状況結果【7月11日：18時現在】



# TEC-FORCE(被災状況調査班(港湾))の活動状況

- 有明海・八代海の漂流物・漂着物の分布状況について、TEC-FORCE(被災状況調査班(港湾))を中心に現地調査を実施・完了し、結果について、第7・10管区海上保安本部、港湾管理者、海岸管理者に情報共有済み。

有明海沿岸の漂流物調査の様子



有明海沿岸の漂流物調査の様子



有明海沿岸の漂流物調査の様子



有明海沿岸の漂流物調査の様子



# 漂流物回収の状況(7月17日20時00分時点)

- 有明海・八代海等への漂流物流入を受け、海洋環境整備船3隻「がんりゅう」「海煌」「海輝」による漂流物回収に着手、(一社)日本埋立浚渫協会等のクレーン付台船7隻を含め、最大10隻体制(現在8隻体制)で漂流物回収作業を実施中。
- **17日20時00分時点の有明海・八代海の総回収量8,396m<sup>3</sup>(16日までの総回収量は7,645m<sup>3</sup>)は、平成30年7月豪雨の総回収量1,027m<sup>3</sup>の8倍以上に相当(昨年度1年間の総回収量は1,353m<sup>3</sup>)。**
- 伊勢湾への漂流物流入を受け、7日から16日まで海洋環境整備船「白龍」による漂流物回収を実施(総回収実績 242m<sup>3</sup>)。

## 有明海(主な活動海域)

海洋環境整備船「海輝」(99総トン)			
	基地港	熊本港	
	船体諸元	全長	27.00m
		全幅	9.00m
		吃水	1.20m
速力	27.60kt		

■ 漂流物回収中。

## 八代海(主な活動海域)

海洋環境整備船「海煌」(195総トン)			
	基地港	八代港	
	船体諸元	全長	35.00m
		全幅	11.60m
		吃水	2.10m
速力	14.8kt		

■ 漂流物回収中。

## 八代海

清掃兼油回収船「がんりゅう」(195総トン)			
	基地港	北九州港	
	船体諸元	全長	32.30m
		全幅	11.60m
		吃水	2.00m
速力	14.69kt		

■ 11日に八代港に到着し、12日より漂流物の回収作業実施中。  
(一社)日本埋立浚渫協会の協力を得つつ、クレーン付台船1隻も稼働中)

## 八代海(宇土半島前面海域)

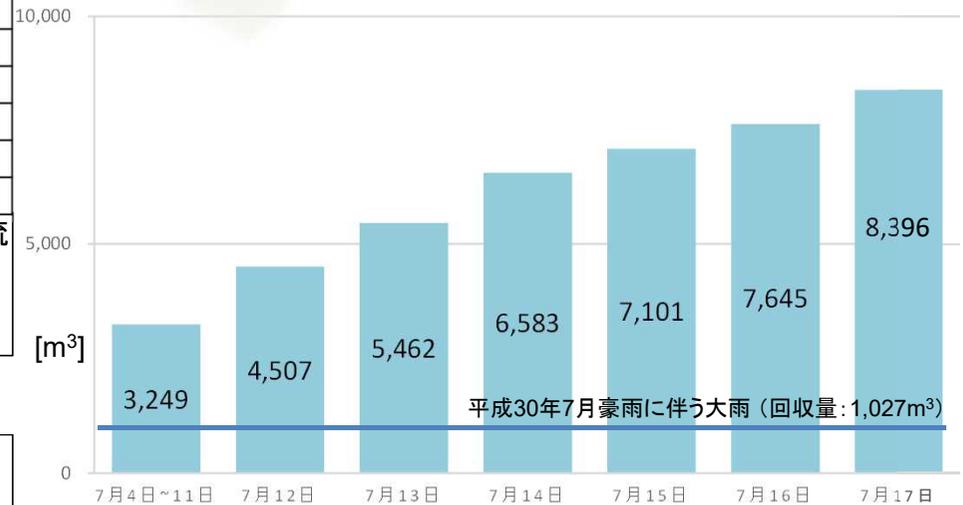
■ 現在、(一社)日本埋立浚渫協会等のクレーン付台船4隻が漂流物回収中。

## 伊勢湾

### 伊勢湾

海洋環境整備船「白龍」(198総トン)			
	基地港	名古屋港	
	船体諸元	全長	33.50m
		全幅	11.60m
		吃水	2.50m
速力	15.10kt		

■ 漂流物回収を実施。



令和2年7月豪雨災害の漂流物回収量(有明海、八代海)

# 海洋環境整備船による漂流物回収(有明・八代海)

八代海



海洋環境整備船「海煌」漂流物回収の様子 (7月8日(水)AM)

有明海



海洋環境整備船「海輝」漂流物回収の様子① (7月8日(水)AM)

有明海



海洋環境整備船「海輝」漂流物回収の様子② (7月8日(水)AM)

有明海



海洋環境整備船「海輝」漂流物回収の様子③ (7月8日(水)AM)

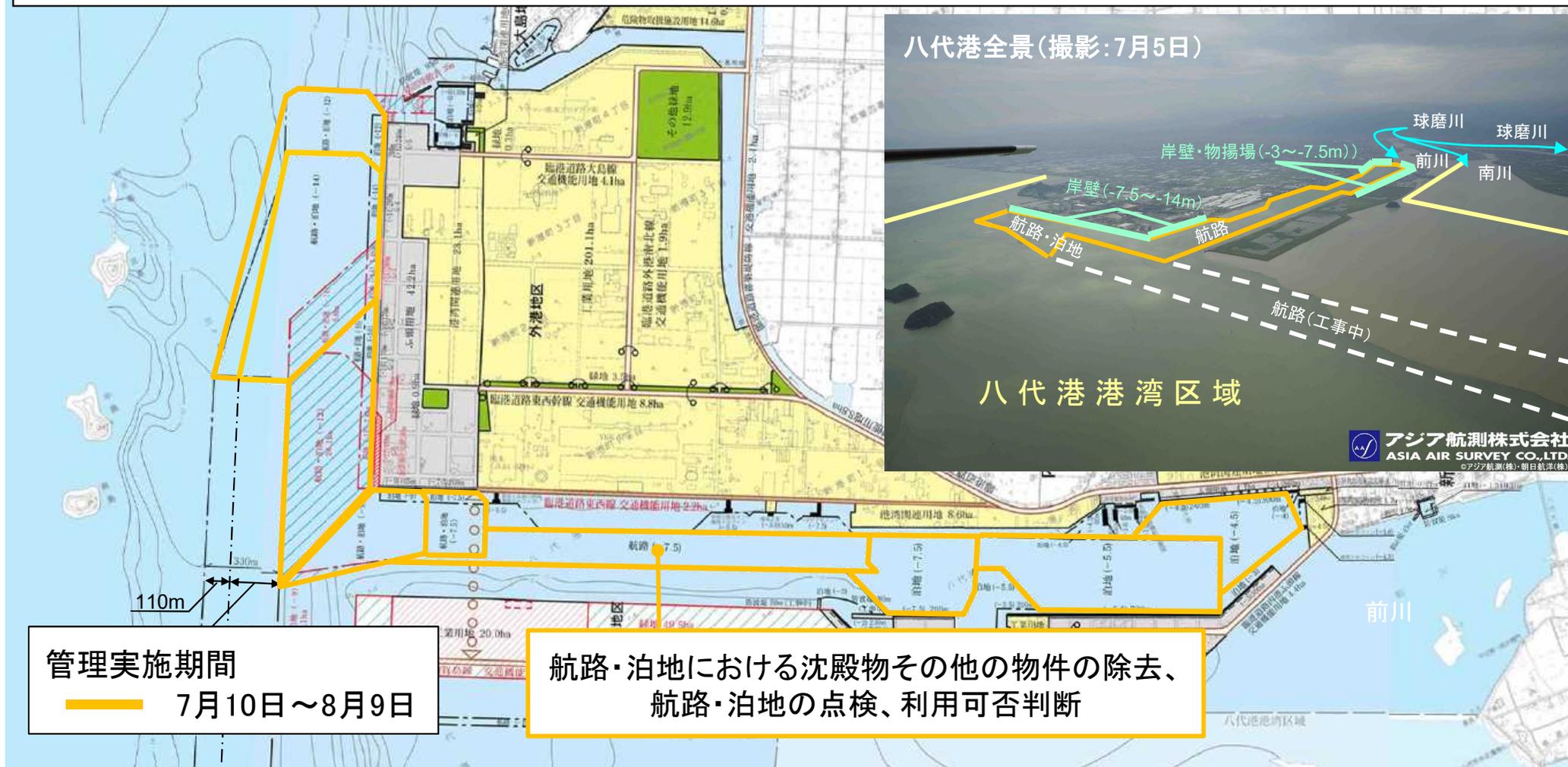
# 宇土半島前面海域での漂流物の回収状況(7月17日20時00分時点)

■ 宇土半島前面海域で南風による漂流物の吹き寄せが確認されたため、(一社)日本埋立浚渫協会等の協力を得て、クレーン付台船4隻体制で漂流物回収作業を実施中。(総回収実績:7,475m<sup>3</sup>)



# 八代港における国土交通大臣による港湾施設の一部管理

- 令和2年7月豪雨により、球磨川等から港湾区域内に土砂や流木等が流入。
- 港湾法55条の3の3に基づき、八代港の港湾管理者(熊本県)からの要請により、国土交通省が八代港の港湾施設の一部管理を実施。
  - 一部管理の内容:八代港の航路・泊地における漂流物・沈殿物の除去、航路・泊地の点検及び利用可否判断
  - 期 間:令和2年7月10日～8月9日
  - 効 果:港湾区域内外を一体的に国が管理することにより、迅速かつ広域的な流木等の除去が可能

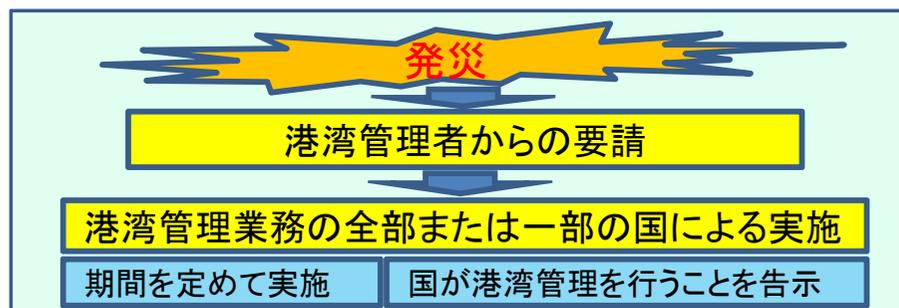


# (参考)非常災害時における国土交通大臣による港湾の管理

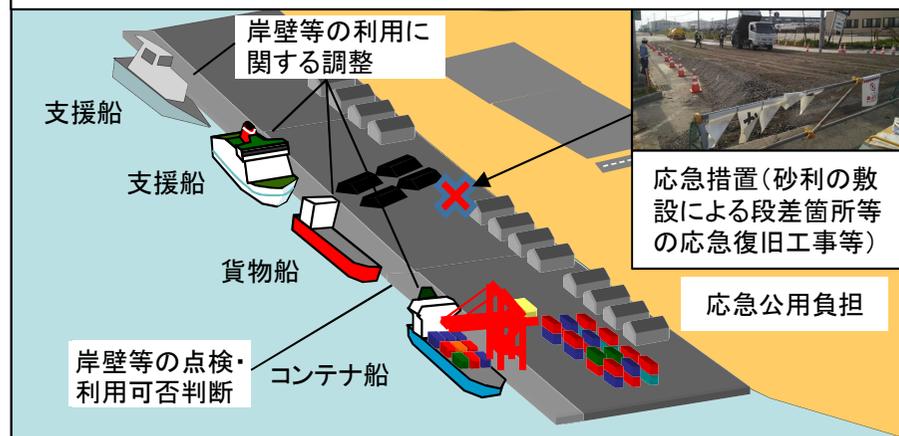
- 非常災害時に、港湾管理者からの要請に基づいて国が港湾施設の利用調整等の管理業務を実施できる制度を創設(港湾法改正、平成29年法律第55号、平成29年7月8日施行)

## <背景・必要性>

- 熊本地震の発生後、支援物資等の輸送拠点となる八代港等において、通常の貨物船に加え自衛隊、海保等の支援船舶が集中したことにより港湾が過度に混雑し、港湾利用者との円滑な調整等に支障。
- 被災した熊本県からの要請を受け、港湾の利用調整やその前提となる施設の利用可否判断等について、国が実務上の支援を実施。
- 被災自治体からも、新たな仕組みの構築が提案された。



【非常災害時に港湾管理者からの要請を受けて国が行う港湾施設の管理業務(イメージ)】



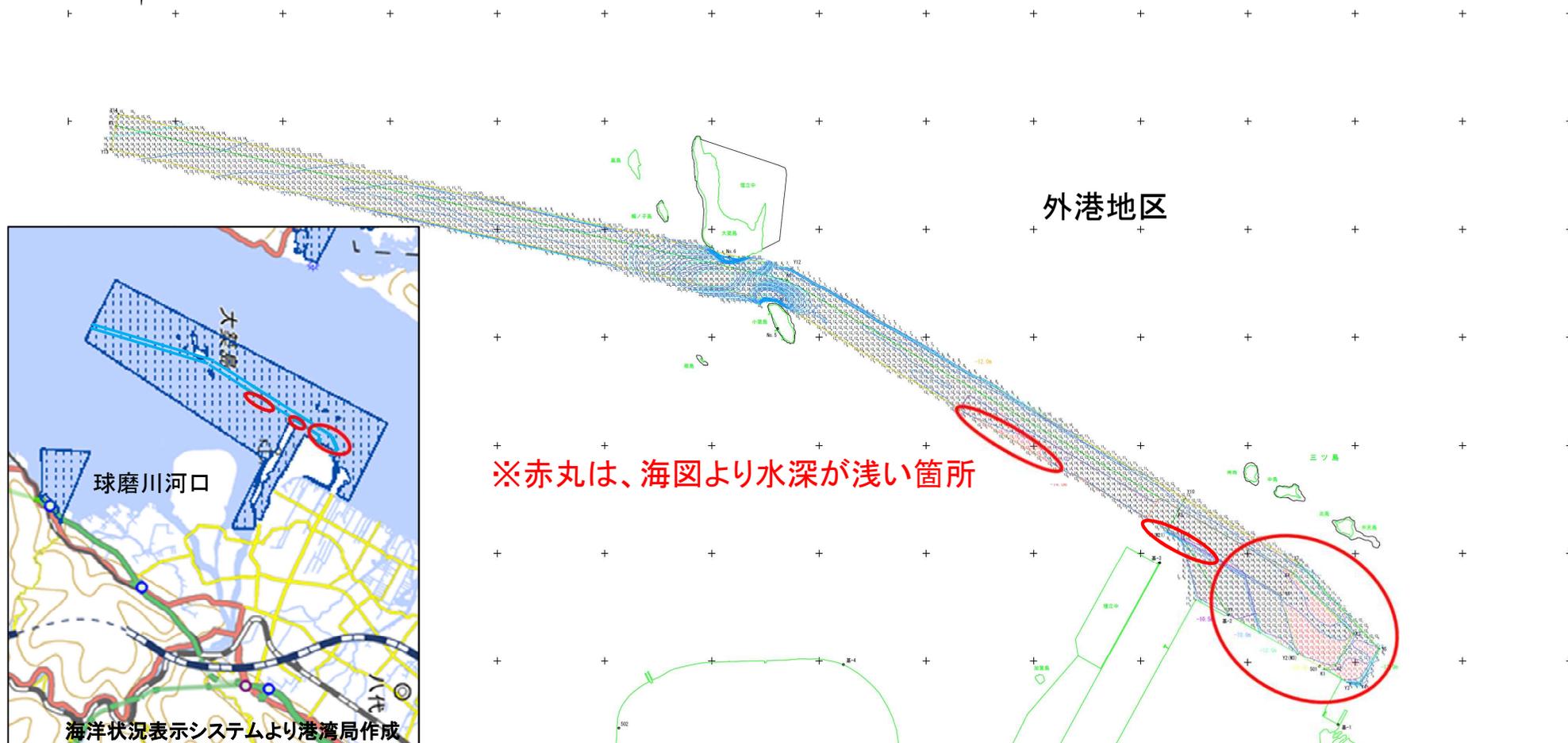
## 具体的な業務の想定

- 岸壁等の利用に関する調整
  - ・ 港湾を含む交通ネットワークの広域的な被災状況、復旧状況を踏まえ、自衛隊・海上保安庁等と支援船舶の受入港を調整する
  - ・ 自衛隊・海上保安庁等の支援船舶、民間企業の一般貨物船等について、利用希望時間、利用可能な施設の状況を踏まえ、利用岸壁・利用時間帯を割り当てることで、円滑な被災地支援を可能とする
- 岸壁等の点検・利用可否判断
  - ・ 岸壁やふ頭用地、臨港道路等の損傷の有無、状況について点検を行う
  - ・ 損傷の状況に応じ、利用可能か判断することで、緊急物資輸送等に利用可能な施設を抽出する
- 応急復旧・支障物件の撤去
  - ・ 臨港道路やふ頭用地に生じた段差について、砂利や敷鉄板の敷設等の応急復旧工事を行い、緊急輸送車両の通行を可能とする
  - ・ 臨港道路やふ頭用地に散乱している瓦礫等の支障物件を撤去し、緊急輸送車両の通行を可能とする
  - ・ 航路に漂流、沈没している瓦礫、コンテナ、車両等を撤去し、航路啓開を行い、緊急物資輸送船の入港を可能とする

- 令和2年7月豪雨にともない、八代港で漂流物や土砂の流入が発生。
- 深淺測量を実施した結果、外港地区の航路・泊地等の水深が下図の状況であることから、支障する船舶については利用制限が必要。内港地区については、現在調査中。
- 漂流物については、7月11日15時時点で、外港地区及び内港地区の航路・泊地とも散見される程度であるが、八代港北側の宇土半島南側浅海域に大量の漂流物が存在しているほか、今後河川からの流入も想定されることから、引き続き注意が必要。



■八代港全体図



# 港湾施設（海岸保全施設含む）の被災状況(7月13日12時00分時点)

被災状況の分類 ■ 航路・泊地等の閉塞 ■ 護岸等の崩落 ■ 漂流物の漂着

地方港湾 神ノ浦港(こうのうらこう) ■■	
港湾管理者	長崎県
被災状況	①流木による泊地閉塞 ②護岸の崩落
復旧状況等	①県による流木回収 ②土嚢による応急復旧着手
利用可否	11日、フェリー運航再開

天草港海岸(あまくさこうかいがん) ■	
港湾管理者	熊本県天草市
被災状況	護岸崩落(約20m)
復旧状況等	侵入防止措置済み その後の対応については検討中
利用可否	確認中

天草港海岸(あまくさこうかいがん) ■	
港湾管理者	熊本県天草市
被災状況	漂流物の漂着
復旧状況等	確認中
利用可否	-

地方港湾 獅子島港(しじまこう) ■	
港湾管理者	鹿児島県出水郡長島町
被災状況	護岸の崩落
復旧状況等	10日、応急復旧完了
利用可否	片側通行可

地方港湾 長浜港(ながはまこう) ■	
港湾管理者	鹿児島県
被災状況	泊地埋塞
復旧状況等	測量が完了し、対応検討中
利用可否	可

地方港湾 長洲港海岸(ながすこうかいがん) ■	
港湾管理者	熊本県
被災状況	漂流物の漂着
復旧状況等	14日までに一部区域回収予定
利用可否	-

重要港湾 八代港(やつしろこう) ■	
港湾管理者	熊本県
被災状況	5日より港湾業務艇「かがしま」と(一社)海洋調査協会の船舶等の調査により、埋没状況等を確認したところ、既定水深より浅くなっている箇所を確認
復旧状況等	引き続き、調査を実施
利用可否	確認中

重要港湾 八代港(やつしろこう)内港地区他 ■	
港湾管理者	熊本県
被災状況	漂流物の漂着
復旧状況等	17日までに回収予定
利用可否	確認中



# 各方面への物資輸送の状況

## 引渡し



芦北町役場での物資引渡しの様子(7日11:00)

物資内訳	・非常用飲料水(1.5リットル)	464本(58箱)
	・ " (2リットル)	72本(12箱)
	・フリーズドライご飯類	356個(5箱)

## 引渡し



大牟田市役所での物資引渡しの様子(7日18:10)

物資内訳	・飲料水	90本(15箱)
	・主食(白飯・パン等)	328個(10箱)
	・主食(焼きそば・おにぎり)	180個

## 引渡し



三池港での物資引渡しの様子(8日14:00)

物資内訳	・飲料水	373本(42箱)
	・主食(白飯・ラーメン・パン等)	848個(24箱)
	・副食(防災食等)	478個(16箱)

## 中継



九州地整本局での近畿地整備蓄品の引渡しの様子(8日11:00)

物資内訳	・非常用飲料水(2リットル)	720本
	・主食(白飯・パスタ等)	1120食
	・副食	370食

## 中継



九州地整本局での中国地整備蓄品の引渡しの様子(8日12:00)

物資内訳	・非常用飲料水(1.5リットル)	16本
	・非常用飲料水(2リットル)	30本
	・主食(白飯・パスタ等)	606食、副食535食



物資輸送のイメージ

# 八代市内の避難所における支援物資(投光器付発電発動機)の利用状況等

- 4日、近畿地方整備局の基幹的広域防災拠点(堺泉北港)から被災地に向け支援物資を輸送し、5日夕刻引き渡し。
  - うち投光器付発電発動機10台が、避難所(市総合体育館、千丁コミュニティセンター)の洗濯場に照明として使用されている状況。
- (現在、投光器付発電発動機は残り10台が熊本港湾・空港整備事務所に留置中。今後、他被災地の避難所や災害復旧現場等の要請があれば届ける予定) ※携帯電話の充電も可能



内閣府(防災担当)によるプッシュ型支援の最速到達日は6日(内閣府HPより)

